



市立高校教育改革方針検討ワーキンググループ会議の議論まとめ（市立高校教育改革方針の具体的事業・取組について）

項目	具体的事業・取組	検討WG会議での意見（事業実施における課題など）
進路探究学習	○企業との連携強化によるインターンシップの内容充実 ○進路探究学習モデル研究開発校の指定	<ul style="list-style-type: none">  ・実施する目的を明確にし、事前・事後学習を含めた継続性のあるものにする必要がある。  ・職場体験の日数を増やすなど、現在以上の取組を行うことは、教員の負担増につながり、対応は難しい。  ・各校共通の取組は、現在日程を確保している1日半（進路探究セミナーと職場体験学習）の枠での検討が現実的。
教育相談体制 （特別支援教育）	○校内支援体制の充実 ○特別支援教育コーディネーターの養成・資質向上 ○学校間連携による単位互換（他校履修制度） ○全校単位制への移行 ○通級指導教室の整備 ○インクルーシブ教育実践推進校の指定	<ul style="list-style-type: none">  ・発達上の課題を抱えた生徒への対応には、サポート体制の充実が不可欠。  ・不適応を起こした生徒への対応は、自校での卒業を前提にした一部他校での履修と、完全な転校という2つの視点がある。完全な転校については、入学した学校と違う転校先の学校で卒業することの是非の議論が必要である。  ・単位互換を考えた場合、すべての市立高校を単位制にすることが望ましい。
学校間連携による 特色化の共有	○学校間連携による単位互換（他校履修制度） ○全校単位制への移行 ○拠点校での特色ある科目の開講 ○共通で開講する学校設定科目の設定	<ul style="list-style-type: none">  ・単位互換を考えた場合、すべての市立高校を単位制にすることが望ましい。  ・学校外の学修により単位認定を行う場合、時間割変更や特別欠席の扱いなどの整理が必要。  ・自校の授業を受けずに他校の授業を受けることに対して、拒否反応を示す教員も多いと考えられる。  ・特定の曜日の午後だけでも、共通で授業を受けられる日を設定できると良いが、時間の確保は困難であろう。
多様な特色ある 教育プログラム	○既存専門学科・コースの充実発展 ○理数系専門学科・コースの設置 ○公募制の学習プログラム研究開発校の指定 （総合的な学習、課題探究、地域連携など） ○大学や企業等との産学連携教育 ○専門学科・コースの集合型高校の設置 ○国際バカロレア型ではない中等教育学校の設置	<ul style="list-style-type: none">  ・グローバルコースの生徒が理系分野で力を発揮することやデザインアートコースの生徒が工業デザイン系大学への進学を目指すことなどは十分考えられることであり、進学に必要な科目（数Ⅲなど）を履修できるような環境を整える必要がある。  ・現在のグローバルコースの需要は1学級程度だが、理系への対応が可能になれば、新たな需要を掘り起こすことができる。  ・プログラミング学習や中国語指導などの充実を図るには、専門教員の配置を進めるなどの対応が必要。8校全体でみれば需要は一定程度あるのではないか。基礎的な内容は学校設定科目で、より高度な内容は課外活動で、という区分けも考えられる。  ・アクティブ・ラーニングの効果が定まっていないこともあり、各校での研修はあまり進んでいない。
学習成果の発表	○市高教育フェスタ、市高アワード ○チカホ・ポスターセッション ○市高生ラウンドテーブル	<ul style="list-style-type: none">  ・大通、開成中等、啓北の3校の生徒が参加するラウンドテーブルを試行実施した。8校の生徒が参加可能とすることで、教育効果が大きくなる。  ・大通のプレゼンテーション大会のように、他人の話聞いて刺激を受けることも重要な教育効果。発表することだけが成果ではない。  ・市立高校を卒業した著名人の話を、8校の生徒全体で聞くなどの取組も考えられる。  ・成果発表は、生徒の成長を促すなどの教育効果に主眼を置くのか、取組のPRなどの広報戦略の一環とするのかにより、形態や対象生徒などが変わる。
地域や企業等と 連携した教育	○大学や企業等との産学連携教育 ○地域課題の解決策を提案するプロジェクト学習の実施 ○地域産業に触れる学習プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none">  ・地域、企業との連携を考える場合、その目的を明確にする必要がある。地域等と連携することによってできることは何かを考える必要がある。  ・連携の目的の一つは、外部の人と接する中で、価値観や勤労観等に触れることである。  ・他市で、市役所の中に「高校生課」という部署を置き、高校生のアイデアで課題を解決するという取組があり、行政との連携という部分で参考になる。
その他	○市立高校コンシェルジュ ○校種間連携 など	<ul style="list-style-type: none">  ・市立高校コンシェルジュはぜひ設置してほしい。情報の収集・発信、人や場のつなぎなど、様々な役割が期待される。元教員や多方面につながりを持っている民間人などがコンシェルジュのスタッフとして考えられる。  ・真駒内は近隣に市立大学があり、幼・小・中学校、高校、大学の連携（一貫）教育を想定した文教地区になり得るのではないかな。  ・新川高校は、近くに小・中学校があり、小・中・高の一貫教育に取り組む環境は整っている。

【意見の位置づけ】

○方法等の改善を要するが、実施することが必要（肯定的）： ○課題があり、現状では実施が困難（否定的）： ○現行の取組に対する認識：